

「平成31年度に実施した仕事」の振返りシート（A：裁量有）

記入日 令和 2 年 6 月 30 日

事業名称		高齢者日常生活支援事業費[高齢者住宅改修給付事業]										
予算科目	款	3	民生費	項	1	社会福祉費	目	3	老人福祉費	事業番号	4	
事業の種別	☐ 市単独 ☒ 補助対象 ☐ 市が実施することが法律等で義務付けられているもの(市の上乗せあり)											
担当部署・課長名	高齢介護					課		高齢福祉		係	課長名	伊野宮 崇
この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。									施策番号	2 - 2		
【施策名】 高齢者保健福祉の推進									総合計画書 (ページ)	51		
この仕事の目的	① 誰(何)を対象にしていますか。 ①住宅改修予防給付：65歳以上で、介護保険法に規定する非該当と認められ、運動機能の低下があると市長が認めた者 ②住宅設備改修給付：65歳以上(ただし、特に必要と認めた者についてはこの限りでない)で、介護保険法に規定する要支援または要介護と認定された者					① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標) 不明						
	② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に] 在宅の高齢者の住宅内における転倒予防、動作の容易性の確保、行動範囲の拡大の確保、介護者の介護の軽減等を図り、高齢者の在宅での生活の質を向上させる。					② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標) 給付者数						
	③ そのために何をしましたか。 市民から給付希望があった場合、担当区域の高齢者ほっと支援センターが自宅訪問し、調査。同センターによる申請代行を受けて、市が給付決定する。決定後、利用者負担額(給付額の1割もしくは2割)が市に納付された後、市は住宅改修業者に工事依頼する。業者から工事完了届が提出されたら、市と高齢者ほっと支援センターの相談員が対象者宅を訪問し、給付工事完了確認を行う。					③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標) 給付者数						
指標の推移			単位	過去2年間の実績		当該年度		成果目標				
				平成29年度実績	平成30年度実績	平成31年度実績		令和2年度目標		令和3年度目標		
	対象指標	①の数値	人	不明	不明	不明						
	成果指標	②の数値	件	①予防給付1 ②設備改修	①予防給付3 ②設備改修6	①予防給付3 ②設備改修8						
	目標	②の目標値	件									
目標値設定の考え方 在宅高齢者の日常生活を支援し、介護者の負担軽減を図るため、前年度実績を目標に設定した。												
3 経費	活動指標	③の数値	件	①予防給付1 ②設備改修	①予防給付3 ②設備改修6	①予防給付3 ②設備改修8						
	事業費(実績)			円	3,084,442	2,152,660	2,749,579		※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外) 年間単価は、8,310,000 円 時間単価は、4,300 円 で計算してください。 【算出根拠】平成30年度決算数値。 (退職手当組合負担金、共済費も含む。)			
	財源	一般財源	円	1,387,999	1,160,660	1,249,697						
		特定財源	円	1,696,443	992,000	1,251,000						
		(うち受益者負担)	円	308,443	168,841	248,882						
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.10	0.10	0.10						
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0						
		職員人件費(再任用以外)	円	825,300	824,400	831,000						
職員人件費(再任用)	円	0	0	0								
事業費+人件費			円	3,909,742	2,977,060	3,580,579						
4 環境変化等	(1) 開始年度 平成12 年度											
	(2) 環境の変化 従前は高齢者住宅改造費助成事業として実施していた。助成種目は浴室、玄関、台所、トイレの改造。介護保険制度の導入に伴い、助成方式から給付方式となり、平成12年度から高齢者住宅改修給付事業として実施している。											

事業名称	高齢者日常生活支援事業費[高齢者住宅改修給付事業]				
担当部署・課長名	高齢介護	課	高齢福祉	係	課長名 伊野宮 崇

5
市民等の意見

この仕事に関して、平成31年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について

住宅設備改修給付では、市民や事業者から浴槽の取替えの希望が中心となっている。

6
市民協働

(1)この仕事の実施にあたり、市民協働に取り組みましたか。取り組んだ場合、取組手法欄の種類から番号を選択し、取組手法欄に番号を記載してください。（複数回答可）

☐ 取り組んだ
☒ 取り組まない

取組手法：

【取組手法の種類】

①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成

⑥情報提供・情報交換（広報媒体： ）⑦後援・場の提供 ⑧その他（ ）

(2)令和2年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点

7
課題

(1)平成31年度に課題とした内容（「平成30年度に実施した仕事」の振り返りシート7課題（3）を転記）

特になし。

(2)(1)の課題解決に向けた取組や、事務改善など、平成31年度に実施したこと。

平成31年度は11件の給付を実施した。

(3)(2)を踏まえた今後の課題（仕事の最適化・合理化の提案）

特になし。

8

施策貢献状況（この仕事は、総合計画（基本計画）に掲げる課題の解決手段になっているか。）

施策名： 高齢者保健福祉の推進

☒ なっている ☐ 環境の変化等により成果が減少している ☒ 類似の事業が他にあり改善の余地がある(事業名：)

9
今後の方向性

(1)仕事の方向性（「7 課題（3）」の課題及び「8 施策貢献状況」を踏まえた具体的な改革・改善案など）

☐ 拡大 ☒ 現状維持 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止

【取組内容】

今後の需要予測

(2)上記(1)の取組にあたり、克服すべき問題点、必要な調整・準備等

費用対効果の視点を加味する。